

# 令和5年度 重点的に取り組む4つの視点

## 【視点1】 暮らしやすいまちへ

都市の活力や発展を支える定住人口の確保に向けては、出生数の減少傾向に歯止めをかけ、転出超過を解消していく必要があります。このため、ICTを活用した教育・子育て環境の充実、中心市街地における民間開発の支援、高齢者の生きがいづくりや居場所づくりの推進など、沼津に愛着を感じ、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを推進してまいります。

## 【視点2】 ひとが行き交うまちへ

にぎわいの創出や地域経済の活性化につながる交流人口の拡大に向けては、本市ならではの特色を活用した魅力的な施策を進めることが求められています。このため、Sea級グルメ全国大会の開催をはじめ、ストリートスポーツパークの整備、スポーツイベントの開催促進、中央公園リノベーションの推進など、地域資源等を活用した多くの来訪者をひきつけるまちづくりを推進してまいります。

## 【視点3】 産業が元気なまちへ

まちの活性化に向けては、産業構造の変化も見据えた、雇用の創出や業務の効率化、農林水産業における6次産業化等を推進するなど、産業の振興を図ることが求められています。このため、企業立地の受け皿となる新たな工業用地の確保、地産地消や農水産物のブランド化の推進、複業人材の活用支援など、産業が元気なまちづくりを推進してまいります。

## 【視点4】 安全・安心のもとで暮らせるまちへ

近年多発している大規模な自然災害や消費生活トラブルなどは、市民生活に不安を与えています。このため、南海トラフ巨大地震に備えた地震・津波対策、不適切な盛土への対応、特殊詐欺や悪質商法による被害の未然防止など、誰もが安全・安心のもとで暮らすことができるまちづくりを推進してまいります。



令和5年2月の市議会定例会で、新年度の市政運営の考えと、重点施策を盛り込んだ施政方針を発表しました。

## 令和5年度 施政方針

令和4年4月の市長選挙において、再び市政の舵取り役を担うこととなりました。その重責を改めて痛感するとともに、初心に立ち返り、「誇り高い、元気なまち沼津の実現に向けて、全身全霊を捧げてまいります。」

昨年は、本市の夏の一大イベントである「沼津夏まつり・狩野川花火大会」を3年ぶりに開催し、約30万人の方にご来場いただいたほか、公共空間を活用してヒト中心の居心地のよい都市空間を創出する社会実験「OPEN NUMAZU」の実施や、本市を舞台とする各種団体によるイベント等が開催されました。さらに、本年3月には、スポーツと健康づくりの拠点であり、中心市街地や隣接する市民文化センターとの有機的な連携によって多様な交流の場ともなる、新総合体育館がオープンします。長期化するコロナ禍において、デジタル技術を活用したテレワークやオンライン授業等が浸透し、新しい生活様式に対応したライフスタイルが定着してきましたが、まちを楽しむ多くの市民の皆様の笑顔に触れ、より臨場感や一体感を味わえるリアルな交流の重みといったものを改めて実感いたしました。新年度におきましては、沼津駅周辺総合整備

備事業をはじめとする活力ある沼津を創造するまちづくりの着実な推進を図りながら、本市ならではの魅力を活用したにぎわいや観光の創出に取り組み、ウィズコロナにおける感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ってまいります。

そして、本年7月には、いよいよ市制施行100周年を迎えます。本市は、大正12年7月1日に全国で89番目の市として誕生し、先人のためまめ努力によって、県東部地域の広域拠点都市として発展してきました。この誇り高い沼津を次世代につなぐため、「さらに沼津。次の100年へ」をキャッチフレーズに、「先人達への感謝と敬意」、「誇りと愛着」、「市民との協働」、「次の100年への新たな一歩」の4つの基本的な考えのもと、様々な記念事業を実施してまいります。

また、行政運営に関しても、この大きな節目を契機として、施策の企画及び推進体制を強化するとともに、まちなか整備の積極的な促進や、沼津駅周辺総合整備事業の本格的な推進や、ゼロカーボンの推進などに伴う組織の改正等を行い、沼津の「動き出す 創り出す」を加速させ、本市が抱える課題に力強く取り組んでまいります。(一部抜粋)

※令和5年度の施政方針の全文は、市ホームページをご覧ください。

◎政策企画課 0550・5050・4・4・474・404

広報ぬまづ 検索

今回の特集では、新年度において重点的に取り組むべき4つの視点と、主な取組について、「第5次沼津市総合計画」の8つのまちづくりの柱に沿って説明します。